

東京大学グローバルCOE「哲学のための国際教育研究センター」(UTCP)
中期教育プログラム「イメージ研究の再構築」主催

University
of Tokyo
Center
for
Philosophy

セミナー

ナビ派の再発見

美術史と趣味の変遷

シルヴィ・パトリ

(オルセー美術館学芸員)

ディスカッサント

平石昌子

(新潟県立近代美術館学芸員)

杉山菜穂子

(三菱一号館美術館学芸員)

小泉順也

(UTCP)

司会

三浦篤

(UTCP)

『芸術における再発見』（1976）のなかで偉大な美術史家フランシス・ハスケルが示したように、美術史とは変化を伴わない普遍的な芸術家と作品の殿堂の上に成り立っているのではなく、忘却と再発見が繰り返され、歴史の流れに変更が加えられた結果としてある。1880年代末にパリで誕生したナビ派運動についても、ある程度まで同じことが言えるだろう。モーリス・ドニ、ピエール・ボナール、エドゥアール・ヴューイヤール、フェリクス・ヴァロットンら中心メンバーたちが忘れ去られることはなかったが、この集団が占めていた地位や彼らの美学は、20世紀初頭にはポスト印象派の歴史や近代美術の物語から姿を消してしまった。20世紀後半になって、ようやくこの運動はそれ自体として再検討されるようになり、パリとチューリヒでは1993年から1994年にかけて「ナビ派——近代美術の預言者」展が開催された。今回のセミナーでは、とくにフランスの事例を取り上げながら、美術館による作品購入の実態と、中心的な芸術家の一人モーリス・ドニが早い時期に手掛けた歴史家としての仕事を通して、先のハスケルの著作の仏訳タイトルでもある「規範と気まぐれ」について考察したい。

—S・パトリ

2010年05月26日(水) 17:00-19:00

東京大学駒場キャンパス18号館4階コラボレーション・ルーム3

参加無料 | 要事前登録

使用言語：フランス語(当日発表原稿を配布)

参加申込・お問い合わせ：image.studies@utcp.c.u-tokyo.ac.jp

Séminaire organisé par le Centre philosophique de l'Université de Tokyo (UTCP)

Histoire de l'art et changement de goût

La redécouverte des Nabis, « prophètes » de l'art moderne

Sylvie PATRY (Conservateur du patrimoine au musée d'Orsay)

HIRAISHI Masako (Niigata Prefectural Museum of Modern Art)

SUGIYAMA Naoko (Mitsubishi Ichigokan Museum, Tokyo)

KOIZUMI Masaya (UTCP)

MIURA Atsushi (modérateur, UTCP)

17 h – 19 h, mercredi 26 mai 2010

Collaboration Room 3, 4^e étage, bâtiment 18, Université de Tokyo, Campus Komaba

Séance en français

Inscription préalable gratuite et obligatoire auprès de : image.studies@utcp.c.u-tokyo.ac.jp